

<学校名> 草加市立川柳中学校

<所在地> 埼玉県草加市青柳7-35-1

<電話> 048-931-5827

<本事例の特徴>

本校には2名のALTが勤務している。一人はイギリス出身の男性、もう一人はジャマイカ出身の女性であり、それぞれ異なる文化や言語環境を持っている。生徒にとって一番身近な国際交流の場となるALTとの交流の一例として、最初の授業における自己紹介や、出身国の文化を紹介するコーナーについての事例を挙げる。

<具体的な取組や成果>

○最初の英語授業における自己紹介

本校には1学年から3学年まで合わせて14クラスがあるが、そのすべてのクラスで2人のALTの自己紹介を行っている。紹介にはプレゼンテーションソフトを使い、適宜クイズなどを交える形で、ALT自身のことや出身国の文化について紹介している。生徒たちは、多彩な経歴や趣味について、あまり知識のなかったイギリス、ジャマイカについての情報を、興味・関心を持って聞いている様子である。また、言語そのものについても2人の使用する英語には違いがあり、世界には様々な英語が存在し、日本人が話す英語もその一つであることを知る機会となっている。

○定期的に更新している自国文化紹介コーナー

上記の自己紹介に加えて、2人の出身国の文化を紹介するコーナーを校内に設置している。外国から入ってきた様々なイベント（例：ハロウィーンやクリスマスなど）が、外国では実際にどのように行われているのかが紹介され、その本来の意味や、日本での行われ方との違いを知る機会となっている。またそれを受けて、日本人の宗教観や、仮装ばかりが取り上げられるハロウィーンが本来持つ意味など、生徒が普段あまり感じていない疑問について英語の授業で取り上げ、あらためて日本の文化や行事について捉え直す機会となっている。



○生徒の感想より (一部)

日本では見慣れないものや景色がいっぱいあってびっくりした。先生のお気に入りのEnglish foodが美味しそうで、お腹がすいてしまった。ローストビーフなら食べたことがある。先生が飼っている犬もとてもかわいかった。

掲示物や自己紹介を見て、私と同じ音楽好きなんだなと感じた。先生の国のものなどを知ることができて、新しい発見だなと思った。